

291

九月三十日

陸軍

292

九月三十日

午前

在奉天橋本少將ヨリ蘇軍ノ態度判断ニ関

スル報告アリ

(第一号 関参第五一九号)

陸軍

極秘

參拾部内第3號

昭和六年九月三日

0294

滿洲事變解決ニ關スル方針

一、滿蒙問題解決ノ目標

滿蒙ヲ支那本部ヨリ政治的ニ分離セ

シムル爲獨立政權ヲ設定シ—初期

ハ三四個所ニ地方政權ヲ設立セシメ、

²⁷³適當ノ時期ニ中央政權ヲ樹立セシ

ム——帝國ハ裏面的ニ此政權ヲ指導
 繰縦シテ彼ヨリ進ンテ帝國ニ信
 倚セシムル如クシ之ニ依リ
 懸安未ノ根本的解決ヲ圖リ滿
²⁷⁴蒙ニ於テ帝國ノ政治的經濟的地
 位ヲ確立スルコト

新政權ヲシテ我既存條約ノ實行
 ヲ約束セシムル程度ニテハ何等ノ效
 果ナク條約不履行ニ對スル保障
 ヲ要求スルハ對外的ニ見テ不利ナリ
 張學良南京政府又ハ現在ノ儘ノ廣
 東²⁷⁶政權トノ間ニ交渉ニ入ルコトハ嚴

ニ之ヲ避クルヲ要ス

ニ支那本部ニ對スル策案

第一項ノ解決ヲ決行セントセハ支那

本部諸政權トノ間ニ相當長期ニ

亘ル紛争繼續ヲ豫期セサルヘカ

²⁷⁶ラス此等紛争ヨリ生スル結果ヲ

真慮シ滿蒙解決方針ヲ前記

以下ニ緩和スルコトハ絶對ニ拒否

スレキモノトス然レトモ支那本部政

權ヲシテ滿蒙ニ生スル新事態ヲ

默認又ハ是認セシメ彼我ノ政治的

²⁷⁷經濟的關係ヲ緩和改善シ得ル

ト認ム

方策ヲ立ツルコト此際緊要ナリ

本目的達成ノ爲支那現下ノ一般情

勢ヨリ見テ速ニ左記策安本ノ實

行ニ著手スルヲ適當ト認ム

(1) 北支那ニ於ケル張學良ノ勢力

ヲ一掃スルコト之カ爲反蔣勢力
又ハ北洋軍閥ヲ利用ス

(2) 廣東政府ヲ支持シ南京政府ノ瓦
解ヲ策ス

(3) 右ニ方策ノ目的ハ支那全土ニ亘ル
政治的混亂ニ依リ滿蒙政變

重大性ヲ輕減シ且滿蒙政權
 ノ樹立ト前後シ我國ノ好意的
 支持ニ依リ北支及中支ニ於テ立
 テル政權ハ俄ニ相互ノ間ニ優越
 的地位ヲ占メ難ク從テ滿蒙
 新政權ニ對スル抗爭的能心度モ

大 = 緩和シ我國 = 對スル一般の態
 度ヲ善道ナシ易シト觀ルニ存ス

三、國內的準備

第一項ノ滿蒙問題解決ハ必然的ニ
 米國ノ又時トシテ國際聯盟ノ干涉
 ヲ招徠スルコトヲ豫期セサルヘカラス

之カ爲對外宣傳ニカヲ用フルト
 同時ニ我國民ヲシテ滿蒙問題
 解決ノ目標トシテ進ムヘキ最少限
 度ヲ理解認識セシメ且米國又ハ
 聯盟ノ干涉ニ際シ與手國一致之ヲ
²⁸²排撃手スル決意ヲ涵養スルノ手段ヲ

講スルヲ要ス蓋シ此等ノ干涉ハ外
交的ノ範圍ヲ出ツルコトナカルヘキ
カ故ニ國民ノ鞏固ナル意志表示
ヲ以テ目的ヲ達シ得ヘシトノ確信
ヲ有スレハナリ